

議会だより

あやがわ



綾川町成人式（平成30年1月3日 綾川町綾南農村環境改善センター）

2018
NO. 47
平成30年1月22日

定例会	2~4P
委員会報告	5~8P
研修報告	9P
8議員の一般質問	10~17P
決算報告	18~19P



綾川町議会ホームページ

新年のごあいさつ



綾川町議会議長

碓石 眞己

明けましておめでとうございます。平成30年の輝かしい新春を皆様とともに迎えられますことは、私の最も喜びとするところでございます。

昨年は、激動の一年でした。国内外で思いもよらない程の重大なことが次々と起こり、それがそのまま私たちの周辺まで影響を及ぼしてきた、そんな一年ではなかったかと思いません。思い起こせば、皇太子殿下、皇太子妃殿下が全国育樹祭に行啓の折、地方事情御視察で綾川町に所在する県農業試験場へ立ち寄られた時に、住民、議会の代表として、特別奉迎、奉送者の荣誉に浴することが出来ました。

また、昨年度は「地方自治法施行70周年記念」の節目の年にあたりました。改めて、わが国の国情を鑑みると、極めて急激な人口減少の局面に突入しており、地方自治体においても、限られた財源、資源及び人材の中で、わが国の持続、発展を確実に担保していくことが求められております。

そのような中、地方分権の大きな流れの中で、町村の果たす役割はその重要性をさらに増しており、議会や行政サービスは魅力ある政策を実施することが求められています。そして住んで良かったと言われる町づくりに邁進しなければなりません。教育、文化の振興はもとより、基幹産業の農林業、商工業の振興を推し進め、町の創意工夫により自由性、独自性を発揮し、住民の皆様と一体となって町づくりを推し進めてまいります。

議会は常に皆様とともにあります。新しい年を迎え、本気で行動し、最大限の努力をしてゆく所存でございます。結びに、この新しい年が町民の皆様方にとって幸多い年でありますようお願いし、新年のご挨拶と致します。

謹んで新年のお慶びを申し上げます

綾川町議会

議長 碓石 眞己

副議長 福家利智子

議員 宮本 勝利

議員 安藤 利光

議員 石井 和義

議員 野中 邦夫

議員 河野 雅廣

議員 鈴木 義明

議員 田辺 健次

議員 横井 薫

議員 福家 功

議員 川崎 泰史

議員 井上 博道

議員 岡田 芳正

議員 三好 重徳

議員 大野 直樹



12月定例会

農林土木災害復旧費に 4326万円

12月定例会開会前、全国最高齢首長の藤井賢町長（88歳）から平成30年4月22日任期満了に伴う次期町長選挙には出馬せず、3期目の今期限りで引退することが表明された。

また、12月定例会は、12月8日から15日までの会期とした。本会議初日は、「町長の専決処分事項の報告」、「綾川町農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数に関する条例の制定について」等、議案17件、報告1件の説明後、8議員による一般質問があった。

また、10月に開催した決算審査特別委員会の審査内容について、委員長報告、採決の結果、「平成28年度一般会計及び特別会計の決算認定」については、原案どおり可決した。

その後、提案された各議案を関係常任委員会に付託し、

散会した。

12日、13日に各常任委員会を開催し、付託された議案を慎重審議した。また、13日には、学校等再編整備調査特別委員会も開催された。

最終日の15日には本会議を開催し、「道路整備に係る補助率等の嵩上げ措置の継続を求める意見書」等の2件が追加提出された。その後、常任委員会・特別委員会での審議内容について各委員長による報告、採決を行い、全ての議案19件を可決した。

今回の傍聴は、羽床小学校の児童11名を含む23名であった。

工事請負変更契約の締結

●平成29年度綾川町移住・定住促進住宅改修工事

契約金額（消費税込）

（変更後） 2億6020万4千円
（変更前） 2億5272万円



改修が進んでいる移住・定住促進住宅(サン・コーポラスあやかみ)

契約者

坂出土建工業(株)

代表取締役 綾 崇平

工期

平成29年5月10日
～平成30年3月23日

条例の制定

●綾川町農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数に関する条例の制定

農業委員会等に関する法律第8条第2項及び第18条第2項の規定に基づき、綾川町農業委員会の委員の定数を19人、農地利用最適化推進委員の定数を20人に定める。

●綾川町工場立地法第4条の2第1項の規定に基づく準則を定める条例の制定

工場立地法では、緑地面積は敷地面積の20%以上、また環境施設面積は敷地面積の25%以上と定められているが、条例の制定により、国の定める範囲内で設定できることから、緑地面積は敷地面積の10%以上、環境施設面積は敷地面積の15%以上に、それぞれ10%引き下げる。

また、区域の範囲は規則で定める。

条例の改正

●綾川町職員の育児休業等に関する条例

地方公務員の育児休業等に関する法律の改正により定める。

●綾川町特別職の職員で非常勤のものとの報酬及び費用弁償に関する条例

農業委員の報酬について、会長を年額30万円、会長職務代理者を年額26万4千円、委員を年額24万円に改正し、新たに農地利用最適化推進委員の報酬を年額18万円とする。実績額は実績に応じて国から交付される農地利用最適化交付金を支給する。

また公民館長の報酬を非常勤報酬から臨時職員の賃金に変更する。

●綾川町職員の給与に関する条例

平成29年8月8日付の人事院勧告により、民間給与との格差を埋めるため、俸給表の水準及び期末・勤勉手当の支給月数を引き上げる。

●綾川町水道事業給水条例

墓地、公園、自治会館及び集会場等の水道料金について、基本料金1ヵ月分を1年分として算定して料金軽減しているが、料金として新たに給水条例で定めるために関係条文を整備する。

平成29年度補正予算

◎一般会計

2億1600万円を増額し、総額93億7065万円とした。

●歳出の主なもの

(千円)

一般会計	人事院勧告・人事異動に伴う補正	30,580	特別会計	町営バス運送事業 運送事業費	1,400	
	定住促進補助金	30,000		国民健康保険 一般被保険者療養給付費	21,000	
	重度心身障害者等医療費支給事業費	18,200		国民健康保険診療所 財政調整基金積立金	11,130	
	保育所施設整備費	11,000		介護保険 介護予防サービス給付費	70,000	
	中学校管理運営費	1,200		企業会計	陶病院事業 人事院勧告及び人事異動に伴う補正	13,568
	総合運動公園管理運営費	4,893		水道事業 人事異動・人事院勧告による人件費の減額	△ 583	
	町単土地改良事業費	6,000				
	農林土木災害復旧費	43,265				
道路橋梁災害復旧費	2,500					

12月定例会

■全会一致の議案

議案の内容	議決結果
町長の専決処分事項の報告	原案可決
綾川町農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数に関する条例の制定	〃
綾川町工場立地法第4条の2第1項の規定に基づく準則を定める条例の制定	〃
綾川町職員の育児休業等に関する条例の一部改正	〃
綾川町特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正	〃
綾川町職員の給与に関する条例の一部改正	〃
綾川町水道事業給水条例の一部改正	〃
工事請負変更契約の締結	〃
平成29年度綾川町一般会計補正予算	〃
平成29年度綾川町町営バス運送事業特別会計補正予算	〃
平成29年度綾川町国民健康保険特別会計補正予算	〃
平成29年度綾川町国民健康保険診療所特別会計補正予算	〃
平成29年度綾川町介護保険特別会計補正予算	〃
平成29年度綾川町国民健康保険陶病院事業会計補正予算	〃
平成29年度綾川町水道事業会計補正予算	〃
指定管理者の指定（綾川斎苑）	〃
指定管理者の指定（綾川町立生涯学習センター及び綾川町立綾上図書館）	〃

■賛否が分かれた議案

平成28年度綾川町一般会計及び特別会計の決算の認定（継続審議案件）	(賛14反1)
-----------------------------------	---------

議員表彰

四国地区町村議会議長会表彰
(議員在職20年以上)



碓石眞己議長

河野雅廣議員

提出先：衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・総務大臣・財務大臣・国土交通大臣

香川県綾歌郡綾川町議会

平成29年12月15日

（前文省略）
現在、国においては、「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」（以下「道路財特法」という。）の規定により、地域高規格道路や交付金事業の補助率の嵩上げを行い、道路整備に対する格別の配慮がなされているが、この措置は、平成29年度までの時限措置となっている。
来年度以降、補助率が実質的に低減することになれば、地方創生、人口減少対策に全力を挙げて取り組んでいる地方の努力に水を差すものであるとともに、香川県内の各町においては、南海トラフ地震等の大規模災害に対する防災・減災対策など、道路に関して緊急的に対応すべき課題を多く抱えており、その解決にも少なからぬ影響を与えることが懸念されるところである。
よって、国におかれては、道路整備を引き続き推進するため、長期的かつ安定的な道路関係予算の総額確保はもとより、道路財特法の補助率の嵩上げ措置について、平成30年度以降も現行制度を継続するとともに、必要な道路整備の推進が図れるよう、さらなる拡充等の措置を講じることを強く要望する。
以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

意見書を可決

道路整備に係る補助率等の嵩上げ措置の継続を求める意見書（抜粋）

総務委員会

平成29年度綾川町一般会計
補正予算

●防犯カメラ2箇所設置

県費補助を活用した事業であり、綾川町総合運動公園と道の駅滝宮に設置予定である。

●若者定住促進補助金

町内に定住するために住宅を新築、又は購入、もしくは建替えを行った若者を対象に、定住促進補助金を交付。

平成29年7月末で当初の40件の応募を超えたため、3千万円(30件×100万円)の増額補正。

詳しくは綾川町総務課
電話087-876-11906

●若者定住促進事業はいつまで継続するのか。また、補助要件の見直しを考えているか。

答 まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で実施して

いる。平成27年度から5年間の事業としているが、PDCAの事業評価を毎年実施している。
補助要件については、変更予定はない。

問 補助金受給者が、1、2年で転出した場合はどうなるのか。

答 要綱には5年間の居住要件があるため、補助金を返還してもらう。

●教育費の中学校費

中学校部活動の四国大会及び全国大会出場に伴う参加補助の増額補正。

今年度、四国大会に7団体の部活動が、全国大会に4個人、4団体が出場した。

また緊急性を要するため、綾上中学校消火配管改修工事を行う。

●総合運動公園管理運営費

総合運動公園体育館防水改修工事の実施内容の変更に伴う増額補正防水工事について、コーキング材の劣化防止対策として、トップ

コートやカバー設置などについて検討した結果、コスト面でも優れている変成シリコンで施工する。

指定管理者の指定

●綾川町立生涯学習センター及び綾川町立綾上図書館

(株)図書館流通センターを指定管理者として指定した。

期間 平成30年4月1日から3年間

学校教育ICTの環境整備

問 高松市が電子黒板を市内小学校の5・6年生の普通教室に導入することが決定したと報道されていた。綾川町では既に整備されていると思うが、もつとPRして良いのではないか。

答 本町のICT環境整備については、平成24年から4年間かけて環境整備した。小中学校において、全学年並びに特別支援学級に電子黒板と同等の物を導入しており、近隣の自治体に比べ

ても遜色はない。
さらなる活用を進めていきたい。

問 100インチ程度の接写式プロジェクター一体型のホワイトボードを導入している自治体があるが、本町での導入予定はないのか。

答 今後、費用対効果を考慮しながら検討したい。

ふるさと納税の状況

問 返礼品の増加は。町においての返礼品の増加を各課にて募集しては。

答 4月から11月の実績で832件、99万5千円であった。返礼品にいちご、おいでまい、柿が増え、さらに返礼品の追加を検討している。



パソコン教室での授業風景

厚生委員会

平成29年度綾川町一般会計
補正予算

●滝宮認定こども園（仮称）
建設工事に係る流用土仮置
き工事費

問 滝宮認定こども園（仮称）
整備地において、水利組合等
が管理している土地はないか。

答 整備地内に水利組合等
が管理する土地はない。農
道・水路の公共用財産があ
るが、用途廃止申請を行い、
その決定を受け、現在、登
記手続きを行っている。

●個人番号カードに関連し
てシステム改修費

問 個人番号カード関連業務
で旧氏対応による委託業務と
は何か。

答 旧氏を使用したいとの
要望に対する対応であり、
婚姻・養子縁組等により、
氏が変更となった方に対応
するためのもの。

●子育て支援医療費支給事
業費

問 子育て支援医療費で当初
見込みが月680万円で、10月ま
での実績が月730万円ならば単
純に計算して年間600万円の増
ではないのか。何故1200
万円の補正増なのか。

答 年度後半にインフルエ
ンザや風邪等による医療費
の伸び率も勘案しての増額。

綾川町介護保険特別会計補
正予算

問 システム改修業務の補助
金額は、各市町の財政力に応
じて決定するのか。

答 各自自治体の人口規模に
応じて、国の補助金算定基
準により算定される。

平成29年度綾川町国民健康
保険陶病院事業会計補正予算

問 収益減に対する分析と対
応策について、どう考えてい
るのか。

答 今年度、常勤医師数が

1名増加したが、患者数の
増加に結びついていない。
今後、医局と病棟、地域連
携室との連携を密にし、患
者数の増加を図っていく。

指定管理者の指定について

●綾川斎苑

問 今現在の運営等について
非常に適正といわれているが、
待ち時間の対応についてはど
うなっているか。

答 アンケート結果でも適
正に行われているとの回答
があった。利用者の待ち時
間については、ご意見等を
参考に検討したい。

●議案外審議

平成30年度保育所、幼稚園、
こども園の入所入園申込状況

全体の入所児童数は、昨
年より若干の増加であるが、
滝宮保育所への入所希望者
が増えている。また、現在
も申込者があり、今後にお
いても増加が予想される。

綾川町災害廃棄物処理基本
計画の策定状況

問 災害廃棄物の仮置き場の
候補地は検討しているのか。

答 発生する地震の規模に
よって、発生量が変わって
くる。災害廃棄物の仮置き
場については、災害廃棄物

を搬入できるか、用地の広
さ等を考慮し、公的用地等
を検討している。

要望

審議会等への女性や若い
世代の積極的な登用をお願
いしたい。



(仮称) 滝宮認定こども園 建設用地

建設経済委員会

現地踏査

●サン・コーポラスあやかみ
現地で改修部分の確認を行った。併せて、今回提出予定の工事請負変更契約に係る変更箇所についても説明を受けた。

工事請負変更契約の締結

●平成29年度 綾川町移住・定住促進住宅（サン・コーポラスあやかみ）改修工事
現在改修中の工事内容に一部変更を要する箇所が発生したため、変更に係る工事748万4400円（消費税込）の増額補正。変更箇所は、就寝室柵の室外移設、エアコン配管用ダクトへの目隠しパネル設置、他。

問 設計段階で、これらの変更箇所について把握できなかったのか。

答 住民要望も踏まえ、施工状況を確認した上で変更の判断をした。

綾川町水道事業給水条例の一部改正

問 今までに水道料金の徴収漏れの事例は無かったか。

答 水道料金の徴収漏れの事例は無い。

問 神社等の屋外に設置されている水道はどうなるのか。

答 現状、既に軽減されているものについては、引き継ぎたい。

平成29年度綾川町一般会計補正予算

歳出

●経済課関係

農業総務管理費は、人事異動及び人事院勧告に伴う人件費の増額補正。農業振興施設整備補助金は、新規就農サポート事業補助金の新規計上及びおいでまい等ブランド強化事業等の事業費の確定見込みによる減額補正。町単土地改良事業費は、台風により被災した小規模災害の補助金の増額補

正。また、農地災害復旧費は台風18号、21号の災害復旧工事等の増額補正、他。

●建設課関係

土木費の土木総務管理費、住宅管理費は、人事異動及び人事院勧告に伴う人件費の増額補正。災害復旧費の道路橋梁災害復旧費は9月の台風18号及び豪雨により被災した町道1件の災害復旧に要する経費の増額補正。

歳入

●経済課関係

災害復旧費分担金は、農林水産施設災害復旧事業費分担金の補正。農林水産業費県補助金は、農業振興費補助金、中山間地域等直接支払事業補助金及び農林水産施設災害復旧費補助金の補正、他。

●建設課関係

国庫支出金の災害復旧費国庫負担金は、台風18号及び豪雨による公共土木施設災害復旧事業に充当するもので、国庫負担率は66.7%。

問 町単土地改良事業費の内容は。

答 災害復旧事業のうち、国の補助対象として採択できなかった農業用施設の復旧事業に係る町補助金。

「道路整備に係る補助率等の嵩上げ措置の継続を求める意見書」の議決を求める要請書
※P4参照

意見

道路整備に関しては緊急的に対応すべき多くの課題がある中で、制度の継続及び更なる拡充を求める必要があり、採択すべきである。

●議案外審議

平成29年度、第21期の4月から10月までの(株)綾南プラザの経営状況、道の駅「滝宮」綾川町うどん会館の入場者、売上高概算実績表等の説明があった。道の駅滝宮再生計画について、全体構想の提案があった。産直市拡大による駐車場確保、建物配置、産直市、レストラン等を検討中。平成

30年度に基本計画等を委員会に提案し、その後、実施設計を行い、平成31年度に建築にとりかかる予定。

問 レイアウトは良いと思うが、テナントに入る店舗を厳選し、道の駅滝宮が活性化するような計画を練ってはどうか。

答 テナントについては公募を検討しており、選定について委員会に諮りたい。

要望 綾川町がうどん発祥の地として内外に発信できるような施設も検討して欲しい。

答 既存のレストラン部分について、レストランで活用するか、うどん博物館等とするかは検討中。

用途地域内宅地等開発誘導施策の要綱(案)

新たに創設する5つの誘導施策の概要と、本町の都市計画制度、町道認定基準等の変遷について説明があった。

問 民間宅地開発事業補助金交付要綱(案)は財政的な将来負担も含め、事業効果等の検証を行なった上での提案か。

答 近年の宅地開発の規模や件数、他市町の状況等も踏まえて提案しているが、説明不足の点もあることから、次回委員会で詳細な資料を提示したい。



駐車場等、全面再生計画中の「道の駅滝宮」

**学校等再編整備
調査特別委員会**

平成30年度の町立保育所等の入所・入園申込み状況は、12月1日現在、町全体で869人の申し込みがあり、平成29年度より若干増えている。特に滝宮保育所への入所希望者が増え、今後とも増加が予想される。

入所の決定については、入所選考会において、教育的配慮、施設の条件等を考慮し、町全体で受け入れを、保育士の人員確保に努め、待機児童がいないようにする。

問 滝宮保育所の申込者が増えていますが、新たに整備されることも園の定数は何人で計画しているのか。

答 280人で計画している。

滝宮認定こども園(仮称)整備事業について、現段階における、園舎・園庭・駐車スペース等の説明があった。



女子ソフトボール合同チーム(綾南・宇多津・坂出)

問 保護者への整備内容及び送迎についての説明はどのように考えているのか。

答 保護者への説明は整備内容が確定した段階で、送迎の仕方など保護者と協議しながら進めていきたい。

問 綾南中学校・綾上中学校で合同の部活動の計画はないのか。

答 合同チーム、合同練習を含めて、町内校長会で前

向きに検討している。

問 指定校変更の条件のうち、小学校時代の2年以上の活動経験という条件を外してはどうか。

答 本来は、住所地で学校が指定される。特例としていくつかの条件があるが、部活動を理由とする場合の具体的な条件を示したものである。

条件を外すことについては、今後検討したい。

東京都品川区 (株)学研プラス
「プログラミング学習」

(株)学研プラスでは、児童書、学習参考書、図鑑、一般向け書籍・雑誌まで、学びを核とした幅広いジャンルでコンテンツの開発に取り組んでいる。また、教育コンテンツのデジタル化、プログラミングイベントなど様々な事業を展開しており、学校教育の教材を利用したICT教育に力を入れている。

2020年より必修化になるプログラミング教育を理数系の教育の一つとして捉え、学校現場の導入について研究中。

課題

- ・ 指導教員の養成、確保
- ・ 授業時間の確保
- ・ 教育教材の確保と指導方法の確立

対策

- ・ ボランティアや民間事業者を導入し、教員をサポートできる体制づくりが必要である。
- ・ 実際の授業について大学生、高専生等を自治体で確保するなど、教員の負担を軽減し、



学研でのプログラミング教育の研修

教育体制の確立をしていく必要がある。

・ 指導要領に入ってくるため、授業時間の確保が課題ではあるが、綾川町でも積極的に取り入れていく必要があると考える。

・ 綾川町では、現在、電子黒板やタブレットPC等の(ハード)整備を進めているが、プログラミング教育に適したソフトの導入も進めなければならぬ。

2020年より必修化の
プログラミング教育

小学校ではプログラミング思考を育み、中高では実際のプログラミングを行う。

小学校でのプログラミング教育

コンピュータに意図した処理を行うよう指示することができるということを体験する
・ 身近な生活でコンピュータが活用されていると知る
・ 問題の解決には必要な手順があることに気付く
・ 良い生活を実現するためにコンピュータとどのように付き合うかを考える。

中学校でのプログラミング教育

社会でのコンピュータの役割や影響を理解し、簡単なプログラムを作成できるようにする

高校でのプログラミング教育

コンピュータの働きを科学的に理解し、実際の問題解決にコンピュータを活用できるようにする

茨城県つくば市 市立竹園
学園西小学校 「ICT機器を活用した学校教育」

9年間で義務教育を進める小中一貫教育学校である。

小学校1〜4年生・小学校5〜中学校1年生・中学校2・3年生の教育課程を4・3・2制に区分することで、児童が低学年の時から、将来像を明確にとらえることができる。

また、管理職は小・中学校両方での授業経験が必須であり、教員は小中の免許を原則持っている。

ICT学習

2015年に学校情報化優良校に認定される等、特にICT教育に力を入れている。学習成果の発表や実験等で活用する等、ICT機器を授業の多方面で利用している。

ICTスキル表

文具の下敷きにICTスキル表(各教科領域で到達すべきスキルを一覧化したもの)を載せ、いつでも見られるようにしている。

チャレンジングスタディ

様々な場所に端末を持って行き、学習を行う。

3年生が体育館でロボットカーに※プログラミングを入力し、指示の確認を行う授業を見学した。

※プログラミングII指示書をつくる事
(家庭学習、復習、病欠時の活用等に応用が可能。)



体育館でのチャレンジングスタディの様子(竹園学園西小学校)

つくば市立竹園学園西小学校では、実際にICT機器を活用した各学年の授業を参観し、本町においても早い段階での取り組みの重要性を認識した研修となった。



開発が進む琴電羽床駅周辺地区



井上博道議員

交通安全対策及び琴電利用に係る駅周辺整備は

利用実態に応じて検討したい

問

琴電羽床駅及び陶駅周辺の駐車場整備によるパークアンドライド推進、駐輪場整備、鉄道の一層の活用ができて、悲惨な交通事故が減少すると思う。交通安全対策及び公共交通機関である琴電利用に係る駅周辺整備についての本町の考えを問う。

答

琴電羽床駅は、パークアンドライドの必要性は現在の駅の利用状況を見ると無いと思うが、今後、駅の利用者数など地域の実態に即して検討したい。琴電用地を、陶駅周辺の道路等の整備は、今後も引き続き地権者との用

地交渉を進める。陶駅のパークアンドライドは羽床駅同様、民間の駐車場の利用等、実態に応じて検討したい。

ゴールドイルカ事業や、町営バスの電車等との結節性を向上させたダイヤ改正により、鉄道の一層の活用推進に対応したい。駐車場整備促進助成金制度は研究課題としたい。

町消防団の報酬等の現状と今後は

他市町の内容を研究し、見直しも検討したい

問

消防団員は崇高な精神で消防業務に就いているが、激務に報い、団員を確保するには、経済面での更なる改善等が必要と思う。町民の生命、身体及び財産を守る町消防団の現状と今後についての本町の考えを問う。

答

本町の団員報酬は年間10万3千円で、県下で一番高い金額である。分団運営活動費については、非常備消防活動費の中で支出しており、現状で継続したい。

消防団員の出勤や警戒については、今後も関係機関と連携を図り、災害の防除、被害

の軽減を図りたい。今後、他市町の内容を研究し、交代等の対応や出勤手当ての見直しも検討したい。

現在ある消防団応援制度の充実等を図りながら団員の確保につとめたい。また、女性消防団員登用についても検討したい。



朝食の効果をサーモグラフィーで確認する栄養教諭



福家利智子 議員

学校栄養職員の配置について

国、県に要望する

問 学校栄養職員の業務は、教育面の指導でなく、学校給食の管理、O-157などの食中毒が発生しないよう徹底した衛生管理をはじめ、食物アレルギーを持つ子供たちへの個別指導及び管理等幅広

くある。この業務を数校掛け持ちで行うことは、時間的にも難しいとの声もある。まして、食物アレルギーに関して

は子供の命に関わることであり、

学校栄養職員の必要性を考え、町で配置拡大をどのように考えているのか。

答 学校で子供たちに望ましい食生活、あるいは正しい食習慣を身に付けさせるために、食育指導の中心的役割を担っているのが栄養教諭である。

本町では、現在、国の配置基準によって3名の栄養教諭が配置されており、1人の栄養教諭にかかる負担は、大きいものとなっている。国・県に要望していきたい。

また、各学校、給食センターと連携し、研修等により、栄養教諭の資質の向上にも努めていく。

投票率向上への取り組みについて

多様な方向から検討している

問 2016年参議院議員選挙から選挙権年齢が18歳以上に引き下げされた。政治への関心を高めてもらうための第一歩として、低迷する投票率の改善は喫緊の課題である。初投票の記念とし

て投票済証を交付すれば、社会的话题が高まるのが期待できる。投票率向上に向けてどのように考えているのか。

答 政治への関心を高め、投票率の向上を図ることは極めて重要であり、高齢者の投票所への移動手段や若年層への選挙啓発など多様な方向から投票率向上に対する検討を進めている。

政治への関心を高めてもらうための第一歩として、低迷する投票率の改善は喫緊の課題である。初投票の記念とし

政治への関心を高め、投票率の向上を図ることは極めて重要であり、高齢者の投票所への移動手段や若年層への選挙啓発など多様な方向から投票率向上に対する検討を進めている。



増便で騒音が心配な高松空港



安藤利光議員

「高松空港民営化」騒音対策はまちごと

町は十分、国・県に要望していく

問

平成30年4月から民営化の高松空港は、国内線1日当たり23便、国際線1週当たり51便の運行を目指す。したがって、国内線で1.4倍、国際線で2.6倍の便数が増える。地域の活性化に繋がることは良いが、問題は今と比べて騒音が相当増えることである。そのため、騒音影響区域図を示して欲しいと9月議会で質した。

これに対して町は「特定飛行場に指定されていないため、騒音影響区域図は作成されておらず、既存の機材、運用時間内で増便されるので騒音影響区域が広がることは考えていない。騒音は運営会社が毎年調査する。」と答弁し、騒音影響区域図を作る考えが無いことを示した。

騒音調査も開港後、民間任せである。

騒音被害対策は航空機が飛んでから対策を行うのではなく、飛行する前に約束をする

答

騒音については、これまで国と事業者に、空港建設当時から反対運動や運行時間の延長等心配する声があったことを伝え、住民に配慮をするよう伝えてきた。増便により騒音区域が拡大されることも国に確認したが、「騒音区域が広がることは考えていない。」騒音影響調査は新規飛行の際に運営会社が行う。」と話したとおりである。

運用時間の延長も、現在、午前7時から午後10時までで、管制官体制から延長は難しい。今後、路線の拡大、運用時間の変更がある時に事前に町と協議する場を設けるよう、国、県、事業者に要望する。

問

前議会の答弁とほとんど変わっていない。計画を組む時は検証すべきでは。

答

今後、新会社が地元住民の意見を聞く機会を設けると聞いている。地元、町も騒音が大きくなり影響が出るということでは困るので、町の意見も十分主張していきたいと思っている。

問

保育園に大型ヘリコプターからの落下物があったという新聞記事も出ていたように、事前に対策をきちんと取り付けることが大事では。

答

町として、十分国、県に要望していく。



投票率向上に向けての啓発活動



田辺健次議員

期日前投票の宣誓書の簡素化は

投票しやすい環境を整備し、投票率の向上を図る

問

今回の衆議院議員選挙での、期日前投票者数は4848人、投票率23・39%。

投票者数に対する期日前投票者の率が39・81%であった。県内では入場券の裏面に宣誓書が印刷されており、事前に記入し投票がスムーズにできる取組みがされている市町がある。

本町の方が投票率は58・76%と高いが、期日前投票での宣誓書の記入が事前にできるものではなく、その場で記入しなければならぬ。その為「不便で、煩わしい。」との住民の声がある。

本町も宣誓書の手続の簡素化をし、投票しやすい環境づくりに取り組んでほしい。

答

期日前投票の投票率は平成26年の衆議院議員選挙では14・90%。今年の衆議院議員選挙では23・39%と増加している。

本町においては、入場券をハガキで送付しているため、宣誓書の事前送付は、システムの改修や郵送方法自体の変更を伴うことから早期に対応することは困難である。

しかし有権者が投票しやすい環境を整備し、投票率の向上を図ることは重要であり、まずは、綾川町のホームページ上に宣誓書を掲載することで、事前に記入できる環境を整えたい。

他市町の取組み等を参考にしながら、期日前投票だけではなく投票率全体の向上を図る環境づくりを検討していきたい。





えがおのプレールーム



大野直樹議員

「えがお」での「子育てひろば」開設について

いきいきセンターを利用計画している

問 「総合保健施設えがお」は、保健師が常駐する環境であり、困りごとの相談も行うこともできる施設である。地域包括支援センターや老健あやがわも隣接しており、お年寄りとの交流もできる。

また、母親や幼児の検診時、病院に通う際も「子育てひろば」があれば、より一層母親や幼児の交流も図られ、子育ての相談や居場所づくりができることから、『えがお』での子育てひろばを開設する考えはあるのか。

答 次年度は、いきいきセンターを利用して定期的に子育て広場や気軽に子育て相談ができる場を作りたいと計画している。

『えがお』においての子育て広場開設については、現在の『えがお』の利用状況や町全体の子育て支援環境状況等をふまえ、検討していく。

問 公設公営での運営にて成功してきた本町の子育て支援であるが、反面、今後は保育士や専門職の確保に努力が必要になると考える。

例えば、NPO法人等に業務委託をする、または一緒に運営していくという考えはあるのか。また、「アウェイ育児」（精神的に孤立を感じながら子育てをしている人）の人にとって広場の役割は重要だと考えるが、どのように考えているのか。

答 現在、民間との関わりは無いが、自分たちで何か活動をしたいという「子育てサークル」の育成等を支援していきたいと考えている。

アウェイだと感じる母親の意見にも耳を傾けながら、今後も、親子が安心して活動できる居場所づくりについても努力していく。





転作麦を播種する風景



岡田芳正議員

今後の米生産調整はどのよう

生産量の確保に推進していく

問 農水省が、今年産と同じ規模の転作を行えば2018年も生産調整を達成できるとしているが、従来生産調整に参加した人が、もらえる米の直接払い(10a当たり7500円)が廃止となり、農家の収入が減り生産調整の達成のメリットがなくなりその対価の不安はぬぐえない。そこで町行政として、今後の米の生産調整を農家にとのよきな形で誘導していくかが重要な責務となる。

併せて、産地作り交付金の独自の見直しも考えなければならぬと思うが、その指針を示し願いたい。

答 本町においては、綾坂地区管農センター単位で示される「米の生産の目安」に応じた調整を行っていくことになるが、直近の過去3年間の本町の「配分面積」に対する「作付面積」率は、95・7%で43%作付けが少ない状況である。

平成29年度においては、前年の11月時点の「作付けの意向調査」と、3月19日に行われた「生産調整説明会」でも作付面積は94・5%にとどまっている。

今後、需給動向を見ながら水田農業の維持に必要な生産量の確保に力点を置き、本町としても生産量の確保に推進していきたい。

また、産地交付金における地域特産物助成として、本町では、国の助成に上乘せしている状況であり、今後とも地域特産物を推進していきたい。





滝宮認定こども園（仮称）建設予定地（上）と現在の滝宮保育所（下）



横井 薫 議員

滝宮認定こども園（仮称）整備の進捗状況は

造成工事を来年度早期に着工 建設工事は2019年度竣工予定

問

滝宮認定こども園（仮称）整備事業基本計画概要について、設計・検討中であったが、その後の進捗状況は。

また、建設予定地での園児送迎車等の安全対策についてどのように考えているのか。移転後の滝宮保育所跡地利活用の考えは。

答

現在、基本計画・基本設計を基に、造成計画及び建物の実施設計作業を進めている。
造成工事は来年度早期に着工、建設工事は2019年度竣工予定である。

問

滝宮認定こども園（仮称）は2階建てになると聞かすが、園児の防災対策は。

答

滝宮認定こども園（仮称）の建物は、敷地面積や利用予定人数、特例保育事業を考慮し、2階建ての計画である。

2階に3・4・5歳児が、1階には0・1・2歳児が入る計画である。

防災については、安全面も考え、階段を使わずに降りられるようにするため、運動場からスロープ式に降りたり上ったりできるように、避難経路確保の計画をしている。

送迎時の安全対策は不可欠で、駐車場への出入り口は2カ所設け、安全な動線での出入りについては保護者の協力も頂き対応していく。
移転後の滝宮保育所の利活用は、園舎本体は築後43年が経過し、老朽化が顕著である。除却も含め、敷地有効活用を検討していく。
遊戯室は比較的新しく、継続的に利用できるため、幅広い分野で活用を検討していく。





タツタの森



川崎 泰史 議員

WEB(ネット)を使ったわかりやすい施設予約は

前向きに研究、検討したい

問 タツタの森で外部から予約ができるWEBシステムの導入は。

答 WEB予約に対し、環境整備も今年の10月に光回線(Kagawa line)が導入された。必要な運用方法、費用対効果を検討する。

設等の予約が可能なシステムがあり、低額のコスト運用が可能。早期の対応を求めたい。

答 利用者の個人情報等の安全性の確認と事務処理運用の構築を研究し、前向きに検討する。

問 運用に関して、オープンリーフという公共施設

問 予約システムを汎用化することで他の施設への転用の可否は。またオープンリーフは利用実態に合わせ

答 統一的な予約管理システム導入は、担当部局や施設ごとに利用環境や管理体制の差異をどうするのか、利用状況がどう改善するのか利用形態と照らし合わせて検討する必要があり、研究課題としたい。

西分保育所の跡地をどう活用するのか

民間活力等を用いることで有効活用を図る

問 西分保育所の利用者の応募状況と今後の公募条件は。

答 8月に地元利用、10月に無償貸与での公募を行い、応募者がなかった。今後、有償貸与の公募を行

う。貸与条件は3年以上の事業実施計画、施設の維持管理を条件とし、営利・非営利、個人・法人を問わず、地域の活性化、振興発展に寄与し、地元の理解を得られる事業者を幅広く募集。

問 跡地利用は大きな課題である。地域の活性化を主として目指す必要があるが。

答 幅広い視野を持ち検討する。

び企業会計の決算を審査・認定

7億5千万円を積み立て

10月24日、26日、27日の3日間開催し、慎重に審議した結果、一般会計及び特別会計、

一般会計

歳入	102億8105万円
歳出	92億6130万円
差引	10億1975万円

その内7億5千万円を財政調整基金に積み立て、残金の内、5155万円を翌年度に繰越した。

総務関係

問 移住定住促進補助金等による若者定住促進事業の実績は。

答 平成27年度・28年度で合計85件の申請があった。転入が148名、転居が136名である。今後は、空き家対策等ともあわせて人口増につなげる施策を考えたい。

問 公会計制度への移行状況は。

答 公会計制度の導入は、平成28年度決算を目標に準備を進めている。平成29年度末には公表できるようにしたい。

問 公会計制度の導入に伴い、給食費の取り扱いをどのようにする予定なのか。

答 給食費を公会計に含めるべきとの意見もあるが、最終的には各市町の判断に委ねられている。当面はこれまで通り給食会計での運用としていくが、今後検討を行いたい。

問 固定資産税過誤納の返還金が915万円支出されているが、今後の具体的な対応策は。

答 町税返還金の915万円には他税の返還金を含んでいる。固定資産税過誤納対応については固定資産家屋図作成業務として、町のGISシステムへの航空写真に家屋図を重ねる作業を実施中である。航空写真を対比することで、新築及び滅失等による課税誤り等を防止できると考えている。

問 固定資産税に係る不能欠損処分額が430万円強あるが、不動産に対する差押え実績が1件も無い。その理由は。

答 不動産については、将来的には研修・研究を重ね対応できるようにしたい。

●町営バス運送事業特別会計

問 町営バス広告収入40万円の内訳は。また老朽化しているバス停も見受けられるが改修計画はどのようか。

答 1台当たり年間8万円、5台で40万円の広告収入を計上している。修繕を要するバス停については、広告収入も充当して順次対応をしたい。



町営バス

問 28年度から県の補助金がなくなっているがその理由は。

答 平均乗車人数が1人未満になったことにより補助対象から除外された。

厚生関係

●陶病院事業

問 平成30年度は、更に経営が厳しくなるとの報告であったが。

答 平成30年度に実施される診療報酬の改定が懸念される。患者に信頼される病院となれるよう、引き続き努力する。

●子育て支援課

問 病児保育について、利用希望者が多く受け入れができない時があるように聞くがその対応は。

答 病児保育については、近年増加傾向にあり、新しくなる滝宮認定子ども園（仮称）においても、病児保育室を設置し対応をしたい。

28年度 一般会計と特別会計及 財政調整基金に

平成28年度の決算審査を行う決算審査特別委員会（委員長 福家功 他13名）は、企業会計の決算をいずれも認定した。



医師の増員が望まれる診療所

●住民生活課

問 最近のマイナンバーカードの取得状況は。
また、積極的な普及啓発が必要ではないか。

答 平成29年3月末時点で1598枚（6・43%）、9月末現在では、1714枚（7・01%）である。マイナンバーカードの取得について、様々な機会を捉えて啓発に努める。

問 ●診療所特別会計
常勤医師の確保はどうか。
答 県の「へき地医療対策協議会」等に要望を行っているが、慢性的な医師不足から実現には至っていない。引き続き強く要望したい。

建設経済関係

問 浄化槽の法定検査の受検状況は。

答 香川県浄化槽協会より報告、受検率は50%で、単独浄化槽の受検率が低い状況にある。

今後とも合併処理浄化槽への転換や下水道への接続に努めたい。

問 公営住宅において、空き部屋がある。その理由は。

答 四半期ごとの定期的な募集方法とするなど、住宅需要に迅速に対応できるように改める。

問 住民が火災等により住宅を喪失した場合に、優先的に入居できるような制度は。

答 現在、滝宮団地1戸、八坂団地1戸、羽床団地1戸の計3戸を確保している。

●農業集落排水事業特別会計

問 借り入れ企業債の利率が高い。借り換えはできないのか。

答 借り換えができる制度はあるが、本町の場合は対象外である。

●経済課関係

問 創業支援事業、若人ふれあい交流支援の実績は。

答 商工会青年部主催により2回開催され、13組のカップルが成立して

いる。

問 認定農業者支援事業の青年就農支援の就業内容及び現在の経営状況は。

答 イチゴ栽培が4人、ブロッコリー栽培が1人で、どれも経営状況は良好である。

問 柏原溪谷キャンプ村の集客は。

答 利用人数は8600人と前年度より1400人程増えている。リピーター率を上げるなど集客に努めたい。



タツタの森



熱心に傍聴している羽床小学校の児童たち

町議会を見学して



羽床小学校

六年 片岡 世良

最初は、町議会のことをあまり知らなかったけれど行ってみることで町議会の大切さがよく分かりました。今回は町長さんの引退ということが報道されていたので、そのことについてまづ話していました。

傍聴して感じたことは、ほくたちの身近にあるものや学校のことについて考えてくれている人がたくさんいるということです。議員さん一人ひとりが綾川町をよくするための考えをたくさんもって考えていてうれしいです。ほくたちが楽しく生活できるのも議員さんたちのおかげだと思います。議員さんは毎日いそがしい中、小学生を見守ってく

れているのでお礼を言いたいです。そんな議員さんはほくたちのヒーローです。困っていることがあれば町議会で話し合い、決まらなかったことは実行してみんなが困らないようにしてくれま



六年 合田 絢美

綾川町議会を傍聴して感じたことが三つあります。一つ目は、藤井町長さんについてです。私が生まれる十八年も前から私たちの町をよりよくするためにがんばってくれた町長さん

です。進め方は学級会のようでした。私はよく司会をしますが、町議会の議長さんはすらすらとつまらずに進めていて、すごいなと思いました。

三つ目は、議員さんについてです。その中で羽床駅の駐車場の問題や、学校栄養教諭の少なさが心に残りました。私は今まで羽床に住んでいて一度もそんなことに気付きませんでした。

綾川町議会の見学を振り返って、綾川町の問題がたくさんあることに気付きました。何よりもすごいと思ったのは、綾川町の議員さんたちが全力で綾川町をどうすればもっとよい町になるだろうと考えていたことです。綾川町に対する思いがよく伝わってきました。

あなたも、議会を傍聴してみませんか。手続きは住所・氏名・年齢を記入するだけです。次の定例会は、3月の予定です。

編集後記

読者の皆さん、明けましておめでとうござい

ます。12月議会は決算を可決、承認。また、各常任委員会に付託された議案も議員から積極的な意見が出され、町も町民の負託に応えていけるよう努力する議会となりました。

羽床小学校6年生の皆さん、傍聴ありがとうございました。

議会だよりは、住民の皆様には議会活動状況が「より見やすく、分かりやすく」をモットーに、これからも議会広報をお届けできるよう頑張ります。議会だよりのご愛読を今年もよろしく願います。

議会広報編集委員会

- 委員長 安藤 利光
- 副委員長 三好 重徳
- 委員 大野 直樹
- 委員 岡田 芳正
- 委員 井上 博道
- 委員 田辺 健次